

令和 3 年度 連携研究スキームによる研究（委託研究課題）  
研究成果等概要報告書

|                |                                            |          |
|----------------|--------------------------------------------|----------|
|                | 課題番号                                       | 20352884 |
| 研究テーマ名         | 農福連携の地域経済・社会、障害者の心体への効果に関する研究              |          |
| 委託研究課題名        | 農福連携効果の学際的かつ定量的研究                          |          |
| 研究実施期間<br>（西暦） | 2020 年度 ～ 2022 年度（3 年間）                    |          |
| 中核機関・<br>研究総括者 | 東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム 専門副部長 岡村 毅 |          |

## 1 研究の進捗状況等

新型コロナウイルス感染症の影響により、視察や、一部のデータ収集に影響が見られたが、概ね順調に推移している。

前頭葉の血流変化の測定（課題①）、農業者や福祉事業者への質問紙調査の回収と分析（課題②）、身体活動量の測定（課題③）、認知症の人における農福連携と通常のデイケアの比較（課題④）、医療機関内における農福連携開拓のフィールド整備（課題⑤）、都市部での共生型農園プログラム参加者の前後の測定（課題⑥）、8050 当事者へのインタビュー（課題⑦）、デイケアへの汎化のための文献調査（課題⑧）とデータの収集や分析が進んでいる。

令和 4 年度は多くの成果を生むと思われる。

### ① 農作業が精神機能（前頭前野賦活）に与える効果の検証

水耕栽培を行う知的障害者に、現場で行うさし芽作業と同じ内容を脳血流測定用課題として提供して前頭前野（前頭極）脳血流変化と単位時間当たりの作業量（パフォーマンス）を調査した。その結果、繰り返しのある作業が前頭極賦活をもたらし、作業継続がパフォーマンスの向上につながることを示された。

### ② 農作業が心体や生産性向上へ与える効果についての調査表開発・調査分析

農業者版調査表回答分析からは、生産性向上要因として、「直接雇用」では障害者による多くの業務分担、「作業委託」では通年業務委託、障害者に配慮した作業環境整備などが示された。福祉事業所版調査表回答分析からは、健康改善率という形で、農作業が心体に与える影響を定量的に示すことができた。また、健康改善率と健康改善の理由となる項目間の相関についても明らかにした。

### ③ 農作業が身体機能に与える効果と生産性との関連の検証

露地野菜を生産・加工している福祉事業所 2 事例を対象に身体活動量を調査した結果、対象者全員が 3METs 以上の身体活動量を、1 日あたり 3.3Ex 以上確保していたことが確認された。また身体活動量や活動強度は個人因子や環境因子で異なることが示された。

### ④ 認知症の人への農作業の効果の定量的分析

高齢者に対する稲作を使った農福連携活動と、同様の対象に行われた

通常のデイケアに関して、事前事後の生活の質（QOL）を比較した。その結果農福連携の方が QOL を回復することが明らかになり、このエビデンスは BMC geriatrics 誌に掲載された。

⑤ **医療現場における農福連携の定量的研究**

K 病院において、中庭を整備し、院内で農福連携が可能なフィールドを整備した。また病棟内でも稲作ケア活動を可能にする準備をしている。2022 年度に行われる院内農福連携活動の準備が整ったので、これから a) フィージビリティスタディ、b) マニュアル作成、c) 活動開始、d) 活動記録、e) 事前事後評価、f) 体験の深掘り、という研究を展開する。

⑥ **都市等における農業を用いた地域づくり研究**

都市部での共生型農園プログラムの実行可能性を検証するために、活動に参加している高齢者 15 名に効果評価を行ったところ、対人交流頻度と認知機能が有意に向上し、プログラムの実行可能性が高いことが示唆された。

⑦ **「8050 問題」に対する農を用いた支援プログラムの開発**

今年度は 8050 問題に携わる専門職、および、中高年ひきこもりの当事者へのインタビュー調査を実施し、8050 問題の概要を把握すること、および、その課題についての整理し、合わせて「農」を用いた支援の可能性についても検討した。8050 問題は制度の狭間にあり支援が非常に困難であることが明らかとなった。また、支援者、当事者のいずれから「農」を用いた支援が有効である可能性が示唆された。

⑧ **社会的に孤立している人に対する農を用いた支援制度の現状と課題の把握**

既存のデイケアの文献調査をしたところ、一時預かり型サービスが重視する機能には領域横断的な共通機能、領域毎に特異的な機能が見られた。次年度は、デイケアが農と連携するための制度要件を検討する。また、障がい児対象のデイサービスセンターと共同で筆者が勤務する大学内の農地でプログラムを行う。